様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　９ 月 １８ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ１８６４７

研究課題名（和文）被災者が表現活動を通して具現化する「安心」～寄り沿い支援の実証的研究と理論の展開

研究課題名（英文）'Feeling safe' as expressed through art by disaster survivors-Developing the theory and practice of emotional support

研究代表者
Ｒｏｎｎｉ　Ａｌｅｘａｎｄｅｒ（Alexander, Ronni）

神戸大学・国際協力研究科・名誉教授

研究者番号：４０２２１００６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、災害後に行われる社会モデルとしての「寄り添い支援」に着目し、アート等を通した支援の中で被災者が表現する「安心」の内実を分析することにより、その活動の意義や方法論を明確にし、被災者が感情、とりわけ安心を表現することの意味と、ワークショップ等を通して「安心」のイメージ及び被災地の時間･空間を越えるヒューマンネットワークの形成状況を実証的に分析した。社会モデルとしての「『表現型』寄り添い支援」の意義、要件や方法を明らかにした上で「『表現型』寄り添い支援」を減災方策や防災教育にも使用可能な新たな方法論として理論を整序した。成果は、実践34回、雑誌論文34本、研究発表29件、図書14本である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
以下のような学術的貢献により社会的な意義が証明された。
①シンポジウム（お絵描きワークを含む）：被災者の感情表現にアートの使用の有効性を実証した。②オンライン・ワークショップ（コロナ禍中）：多様な表現の使用は支援する側・される側という二分法による関係性を双方向性に変え、信頼を深める方法として有効であることを示した。③寄り添い支援を５年間も同じ児童と継続して実施したことが高く評価され、支援活動におけるアートの有効性を実証し、防災教育等に使用する可能性を示した。④社会モデルとしての「『表現型』寄り添い支援」が中期的な「安全・安心」を生む土壌形成に寄与することを理論的に考察し、国際学会で報告した。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the social model of post-disaster emotional support. It examines the ways survivors express feeling safety through art and other modes of non-verbal expression in order to demonstrate the efficacy and meaning of such activities. It first clarifies the ways survivors express feeling safe, and then through workshops and other activities, examines the image of safety and the ways it is built and spread through a human network that exceeds time and space, also demonstrating the efficacy of the use of art to build trust. In clarifying the meaning, conditions, theory of, and methodology for emotional support as a social model, this research contributes to the theory and practice of disaster risk reduction policy and risk reduction education. A total of 34 workshops were held using this methodology, and the project produced 34 journal articles, 29 scholarly presentations, and 14 books and/or book chapters.

研究分野：`教育学およびその関連分野

キーワード：寄り添い災害支援　　表現型支援　表現活動　災害支援　防災教育　アート　安心　絵描き

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究のきっかけは、2011 年の東日本大震災後から代表者らが継続的に展開してきたアートによる支援活動である。本研究で取り扱う「寄り添い支援」の意義や方法については、医療分野においてはある程度の実績があったのに対して、社会科学においては、学術的な分析はまだ少なかった。被災者支援を社会的位相からとらえようとする社会モデルとしての「寄り添い支援」については、支援すること自体の意義が指摘され（日本福祉文化学会編集委員会編（2010）『災害と福祉文化』明石書店）、ボランティア論としても展開されているが（渥美公秀（2014）『災害ボランティア』弘文堂）、「寄り添うこと」による支援の意義や内容、方法を探究する研究は管見の限り見当たらない。そこで、本研究で「寄り添い支援」のうち、被災者自らの感情、とりわけ「安心を表現する活動」（「『表現型』寄り添い支援」）を媒介にした支援に注目し、社会モデルとして理論化し、今後の支援及び減災方策の豊富化と持続可能な社会形成のための一助とすることを意図する。

２．研究の目的

本研究は、災害後に行われる社会モデルとしての「寄り添い支援」に着目し、アート等を通した支援（以下「『表現型』寄り沿い支援」と呼ぶ）の中で被災者が表現する「安心」の内実を分析することにより、その活動の意義や方法論を明確にする。具体的には、①「被災者が感情、とりわけ安心を表現すること」の意味と表現活動への支援者の関与の様相、②振り返りワークショップを通して被災者の表現活動が生む「安心」のイメージ及び被災地の時間･空間を越えるヒューマンネットワークの形成状況、の 2 点を実証的に分析し、③社会モデルとしての「『表現型』寄り添い支援」の意義、要件や方法を明らかにする。その上で④「『表現型』寄り添い支援」を、減災方策や防災教育にも使用可能な新たな方法論として理論を整序する。本研究体制は豊富な実践経験を持つ代表者（平和学）と、多様な専門（美術鑑賞学、教育学、社会学、医療コミュニケーション、国際法）を持つ分担者から構成されているため、学際的かつ実践的な検証成果が期待できる。社会モデルとしての「『表現型』寄り添い支援」の学際的な研究は今までなされておらず、災害支援、減災方策、そして平和学の各領域において新たな理論的展開を提示できる。

３．研究の方法

本研究では『表現型』寄り添い支援によって表現される「安心」のうち、社会モデルとして実践されてきた事例を取り上げ、①「被災者が表現すること」の意味と表現活動への支援者の関与の様相、②被災者の表現活動が生む「安心」のイメージと、被災地の時間･空間を越えるヒューマンネットワークの形成状況、の 2 点を実証的に分析し、③社会モデルとしての「『表現型』寄り添い支援活動の意義と備えるべき要件や方法を明らかにする。その上で④災害後の町づくり過程における被災者自身の主体的な参加を促す可能性を含む「『表現型』寄り添い支援」を、減災方策や防災教育にも使用可能な新たな方法論として理論を整序することを目指してきた。それぞれの達成に向けての具体的な方法論は当初、以下の通りであった。被災地への移動、被災者をはじめ多くの人が集うことを前提にされた研究なので、2020 年初めに起きた新型コロナウイルス感染拡大のために方法を調整しながらできる活動を中心に展開してきた。

① 「被災者が表現すること」の意味と表現活動への支援者の関与の様相については、文献調査及び東日本大震災被災地（岩手県）で実施されてきた「寄り添い支援」に関する報告書等から、絵と絵から生まれる物語に絞って、「安心」をキーワードに、社会モデルとしての「『表現型』寄り添い支援」の概念の整理、明確化である。

② 「実践振り返りワークショップ」による「『表現型』寄り添い支援」の特徴、意義の明確化
被災者の表現活動を促す支援グループの代表者を対象に「実践活動振り返りワークショップ」を岩手県大槌町で 2 回開催し、各々の支援策の効果の特色を抽出し、「『表現型』寄り添い支援」の特徴と意義を明確化する。

③ 表現活動による「安心」のイメージ分析と、ヒューマンネットワークの形成
「ポーポキ友情物語活動」を実施し、現時点での被災者の表現活動を被災者が絵を描くプロセスに対話型鑑賞の手法を取り入れて参与観察するとともに、絵を描く当事者（被災者）たち（支援者を含む）の対話（ナラティブ）を、テキストマイニングを用いて分析し、被災者が考える「安心」とは何かを明らかにし、表現活動に参加する人々のネットワーク形成のあり方を分析する。

④ 「『表現型』寄り添い支援」実践の要件考察後、『表現型』寄り添い支援」を減災方策あるいは防災教育に使用可能な新しい方法論として位置づけるための理論整序
上記①～③の研究を基にして、社会モデルとしての「『表現型』寄り添い支援」の意義やその支援活動が備えるべき要件、方法を考察、明確化を踏まえて、被災者の感情表現

は目前にある復興だけでなく、より中期的な「安全・安心」を生む土壌形成に寄与することを理論的に考察し、日本平和学会、米国ピッツバーグ大学の災害研究センターで成果発表する。

４．研究成果

社会モデルとしての「『表現型』寄り添い支援」について、以下のことが明らかになった。

① 2018 年度、2019 年度に「絵と絵本と医療と災害の持ち寄りパーティ」というシンポジウムとお絵描き活動を神戸で開催した。2018 年度の内容は、岩手県大槌町で被災した医師や写真家、ボランティア活動を行った NPO スタッフ、大学院生及び人権活動を行っている小学校 5 年生による講演、安心についての紙芝居、安心を表現するお絵描き活動であった。2019 年度は大槌町からの NPO 代表及び福島県福島市からの美術教諭による講演とグループによる安心を描く活動で構成された。これらのシンポジウムでは、専門家や東日本の被災地から多様な表現によって「安心」が語られた。阪神大震災などの体験者や災害ボランティアの出席者からは、それぞれの活動を受けて、自らの体験をふりかえるきっかけになったという感想が印象的で本研究で取り上げている「表現型」寄り添い支援が時間や空間を超えて有効であることを実証している。また、語り合った。参加者からは例えば、「何げなく見過ごしたり気づかずにいることを改めて考えるきっかけになりました」、「不安からありのままのものや表現でなく、別の表現や形、見え方にされているものが多くあること。自分も日常から特に考えもせずそうしているのではないかと考えさせられた」など。また、被災者の講演からの気づきはたとえば、「震災後、着る服が黒色などの黒いものに変わった」という話が印象に残り、安心や不安の表現には様々な仕方があることに気づいた、というコメントは、多様な表現方法による「安心」の有効性を示している。

② 新型コロナウイルス感染拡大のために 2020 年度のシンポジウムは企画したが開催ができなかった。また、被災地でのふりかえりワークショップは同様に困難となり、最終的に開催を断念せざるを得なかった。断念した重要な理由の一つは、感染者数が非常に少なかった被災地で神戸からの受け入れを不安に思っていた被災者の存在であった。多様な表現方法による安心を表現する研究であることや、ともに寄り添い支援活動を続けていることにより、被災者が受け入れに関する不安を研究代表者に伝えることができたことが本研究の成果の一つとして位置付けることができると思わる。なぜなら、「表現型」寄り添い支援を継続していることは、支援する側・支援される側という二分法による関係性を多様化し、信頼を高めることにつながるからである。また、今後の研究課題となるが、このことは本研究が提案する「安心」は一過性のものではなく、支援を継続する中で形が見えてくるという「安心」の重要な側面を表している。さらに、被災者が抱える不安は、自らの状況が落ち着いても、新たな災害や危機によってよみがえることも物語っていると思われる。

③ パンデミックによって「ポーポキ友情物語活動」が展開できなくなり、それにより表現活動による「安心」のイメージ分析と、ヒューマンネットワークの形成が当初予定していた通りにできなかったが、2019 年度に被災地（大船渡市）で一緒に対面でお絵描き活動をした小学生とオンラインで活動を継続できた。初回は東日本大震災が発災した 2011年に生まれた子ども（2 年生）と対面で行い、それ以降はオンラインで絵本とアート（お絵描）による交流を継続し、被災地の子どもたちの成長を捉えた。2023 年度は 6 年生になった子どもたちに本研究を通して開発した「お絵描き絵本」を用いたオンラインワークショップを実施した。このようにコロナ禍にもかかわらず、寄り添い支援を５年間も同じ児童と継続して実施したことが関係者や現地新聞によって高く評価され、支援活動におけるアートの有効性を実証できた。

④ 社会モデルとしての「『表現型』寄り添い支援」の意義やその支援活動が備えるべき要件、方法を考察、明確化を踏まえて、災者の感情表現は目前にある復興だけでなく、より中期的な「安全・安心」を生む土壌形成に寄与することを理論的に考察し、2024 年 4月に米国産蔵シスコで開催された International Studies Association Annual Convention（ISA）でパネルを主催し報告と実践を行うことができた。これにより、被災地のみならず、国際移動や人々が集う集会や学会などにおける「安心」が概念として重要であること、多様な表現方法（アート）による表現活動の有効性と、アート及び物語を用いることによる新たな知的展開が実証された。以下は当該研究の実践例。

1. 2024.3.10 「ポーポキのお絵描きワークショップ」びっくり箱 Part 13 ― 負けない忘れない 3.11 ここから生まれる未来。内容：ポーポキ友情物語展と「安心」を描く実践。(招待ワークショップ＆トーク)
2. 2024.2.1 「ポーポキのふりかえり」～５年間の交流を通じて考えた平和と安心を描く

オンラインワークショップ。内容：大船渡市立大船渡北小学校６年生とお絵描き絵本の提供による交流。（当該科研費による寄り添い支援活動・研究）

3. 2023.10.31「絵と絵本と医療と災害の持ち寄りパーティ Part 3」神戸大学大学院人間発達学研究科 （2020.3.17 コロナウイルス感染拡大のため中止となったイベントの開催）。内容：被災地の専門家による講演、グループでアートによる「安心」の主体的表現。（当該科研費ワークショップイベント）。
4. 2023.10.31 「岩手県大槌町おばちゃんくらぶの Shake hand ワークショップ」あすパーク。内容：学童保育「子どもリビング」の児童を対象とした表現活動と被災者による被災体験についての学習。（当該科研費ワークショップイベント）。
5. 2023.8.23 「ねこのポーポキと平和を描くワークショップ」あすパーク。 内容：学童保育「子どもリビング」の児童を対象とした表現活動による平和学習。
6. 2023.8.3 「ねこのポーポキと一緒に平和について考え、自らも平和をつくりましょう」。第２０回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー、分科会 E。内容：全身やお絵描きを使って、平和を表現し、物語（紙芝居）を作成する講演・ワークショップ。（招待講演）
7. 2023.5 「ねこのポーポキと平和を描くワークショップ」あすパーク。 内容：学童保育「子どもリビング」の児童を対象とした表現活動による平和学習。子どもリビング
8. 2023.3.5 「ポーポキのお絵描きワークショップ」びっくり箱 Part 12 ― 負けない忘れない 3.11 ここから生まれる未来。内容：ポーポキ友情物語展、シンポジウムにて「安心を中心とするポーポキ友情物語活動」についての報告。（招待）
9. 2023.2.6 “Diversity is more than counting, and more than women: Looking at diversity from a broad perspective.” FoPM International Symposium. Ito Hall, the University of Tokyo. Plenary 1. 内容：多様性、ジェンダーの包摂実現の課題と多様性の表現における非言語的コミュニケーションの有効性について。（招待講演）
10. 2023.2.1 「ポーポキの新しい友だち」～友情と安心を描くオンラインワークショップ。内容：大船渡市立大船渡北小学校５年生とお絵描き絵本の提供による交流。（当該科研費による寄り添い支援活動・研究）
11. 2023.1.7 「平和って、なんだろう？ねこのポーポキと一緒にかんがえよう！」2022 年度国際教育ワークショップ 地球市民を地域とともに育てよう part 21（公財）滋賀県国際協会 SIA 共催 JICA 関西 国際教育研究会 Glocal net Shiga。内容：表現活動を取り入れた平和学習。（招待講演）
12. 2022.11.5 「ウクライナ問題～消えないモヤモヤ感」戦争をさせない石川の会・講演会。内容：ウクライナ問題、戦争によって生じて「もやもや感」を物語、絵描き活動を通して表現する。（招待講演）
13. 2022.8.3 「ねこのポーポキと一緒に安全・安心を考え、平和をつくりましょう」。 第 1９回 多文化共生のための国際理解教育・開発教育オンラインセミナー。内容：平和についての学習と安心を全身で感じたりしてから安心をテーマとする紙芝居の作成。（招待講演）
14. 2022.3.10 「大船渡市立大船渡北小学校とのお絵描き絵本交流展」びっくり箱 Part 11 ― 負けない忘れない 3.11 ここから生まれる未来。内容：絵本と安心を描けるワークショップの展示。（招待展示・トーク）
15. 2022.2.23 「ポーポキと一緒に大船渡のまちを感じてみよう！ポーポキのピース・マップ」～平和と安心を描くオンラインワークショップ。内容：大船渡市立大船渡北小学校 4 年生とお絵描き絵本の提供による交流。（当該科研費による寄り添い支援活動・研究）
16. 2021.8.4 「ねこのポーポキと一緒に安全・安心を考え、平和をつくりましょう」。第 18 回 多文化共生のための国際理解教育・開発教育オンラインセミナー。内容：平和、安全の理解を深める講演とグループワークによる紙芝居づくり。（招待講演）
17. 2021.1.18~3.31 「ねこのポーポキや世界の友だちと安心について考えましょう」おはなしころりんの『聞(き)いてください！私(わたし)たちはこんな夢(ゆめ)を抱(いだ)いています！』プロジェクト 内容：お絵描き絵本（「ポーポキ、安心って描ける？」絵・文 R.アレキサンダー）と安心についての調査と展示（大船渡市・NPO 法人おはなしころりんとコラボレーション）。（絵本の提供による交流）。

以上に加えて、2018 年 4 月から 2020 年 12 月まで、16 件

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計34件（うち査読付論文　23件／うち国際共著　8件／うちオープンアクセス　15件）

１．著者名 Alexander Ronni	４．巻 0
２．論文標題 A Critical Introduction to Gender and Disaster: Learning from Women Survivors in Northeast Japan	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Making Disaster Safer	６．最初と最後の頁 19～39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-981-99-4546-7_2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Alexander Ronni	４．巻 0
２．論文標題 Feeling and Drawing the Invisible: Identifying Vulnerability Through Alternative Expressions of the 2011 Northeast Japan Disaster	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Making Disaster Safer	６．最初と最後の頁 197～215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-981-99-4546-7_11	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 宍戸 聖弥、篠川 裕子、富士 しおり、高田 哲	４．巻 42
２．論文標題 自閉スペクトラム症のある児の作業遂行技能と適応行動水準および知的能力との関連について	５．発行年 2023年
３．雑誌名 作業療法	６．最初と最後の頁 151～159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32178/jotr.42.2_151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Tsuda Satoko、Takada Satoshi	４．巻 36189770
２．論文標題 Assessing the effectiveness of a comprehensive menstrual health education program for preadolescent girls with intellectual disability and high support needs in Japan	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Journal of Intellectual Disabilities	６．最初と最後の頁 304-304
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/17446295221130423	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Madoka Toda, Hisafumi Yasuda, Satoshi Takada	4．巻 68(1)
2．論文標題 Longitudinal Changes and Features of Sleep Patterns of Mothers with Preterm Infants during the Early Postpartum Period.	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Kobe J. Med. Sci.,	6．最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 篠川 裕子、高田 哲	4．巻 62
2．論文標題 神経発達症の特徴を示す思春期・青年期者への作業療法による自己理解の変化―思春期相談・居場所事業の体験から―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 小児の精神と神経	6．最初と最後の頁 151～160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24782/jsppn.62.2_151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 篠川 裕子、高田 哲	4．巻 62
2．論文標題 幼児教育施設における保育所等訪問支援の受け入れの現状と課題	5．発行年 2022年
3．雑誌名 小児の精神と神経	6．最初と最後の頁 107～115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24782/jsppn.62.2_107	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 近藤千惠，高田哲	4．巻 81(3)
2．論文標題 乳児期の双生児とその母親の夜間睡眠行動の推移	5．発行年 2022年
3．雑誌名 小児保健研究	6．最初と最後の頁 235-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Alexander Ronni	4．巻 29
2．論文標題 Art-stories as reflection: Learning from the Popoki Peace Project	5．発行年 2022年
3．雑誌名 国際協力論集	6．最初と最後の頁 27～51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/81013055	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 ロニー アレキサンダー、桂木 聡子、勅使河原 君江	4．巻 15
2．論文標題 被災者の多様で個別的な安心についてお絵描きを通して思索する活動	5．発行年 2022年
3．雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6．最初と最後の頁 53～65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/81013202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takada Satoshi, et.al	4．巻 52
2．論文標題 Genetic Analysis of UGT1A1 Polymorphisms Using Preserved Dried Umbilical Cord for Assessing the Potential of Neonatal Jaundice as a Risk Factor for Autism Spectrum Disorder in Children	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Autism and Developmental Disorders	6．最初と最後の頁 483～489
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10803-021-04941-w	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 篠川裕子、高田　哲	4．巻 62
2．論文標題 神経発達症の特徴を示す思春期・青年期者の自己理解に対する作業療法支援～思春期相談・居場所事業の体験から～	5．発行年 2021年
3．雑誌名 小児の精神と神経	6．最初と最後の頁 掲載予定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 アレキサンダー・ロニー	4．巻 28(2)
2．論文標題 The Meaning of Art in Disaster Support: Stories from the Popoki Peace Project	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『国際協力論集』	6．最初と最後の頁 1－22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Alexander Ronni	4．巻 32
2．論文標題 Reflecting on Hiroshima/Nagasaki at 75	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Peace Review	6．最初と最後の頁 325～331
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/10402659.2020.1867349	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Y. Watanabe, T. Ohtoshi, T. Takiguchi, A. Ishikawa, S.Takada	4．巻 66(2)
2．論文標題 Quantitative evaluation of handwriting skills during childhood	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Kobe J. Med. Sci	6．最初と最後の頁 E49-E55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 M. Ishi, J. Honda, A. Shimizu, R. Mitani, R. Uchimura, M. Hashimoto, H. Ide, S. Takada	4．巻 66(2)
2．論文標題 Interprofessional collaborative practice for child maltreatment prevention in Japan: A literature review	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Kobe J.Med. Sci	6．最初と最後の頁 E61-E70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Mari Kurokawa, Akio Yamamoto, Satoshi Takada	4．巻 50(2)
2．論文標題 Translation and psychometric analysis of the Japanese version of the perceived maternal parenting self-efficacy scale.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Obstetric, Gynecologic & Neonatal Nursing	6．最初と最後の頁 214-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jogn.2020.10.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 T.Horinouchi, K. Maeyama, M. Nagai, M. Mizobuchi, Y Takagi, Y. Okada, T Kato, M. Nishimura, Y Kawasaki, M. Yoshioka, S. Takada, H. Matsumoto, Y. Nakamachi, J. Saegusa, S. Fukushima, K. Fujioka, K. Tomioka, H. Nagase, K. Nozu, K. Iijima, N. Nishimura	4．巻 -
2．論文標題 Genetic Analysis of UGT1A1 Polymorphisms Using Preserved Dried Umbilical Cord for Assessing the Potential of Neonatal Jaundice as a Risk Factor for Autism Spectrum Disorder in Children	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Autism and Developmental Disorders	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10803-021-04941-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田哲	4．巻 50(5)
2．論文標題 文部科学省の学校での取り組み	5．発行年 2020年
3．雑誌名 周産期医学	6．最初と最後の頁 849-853
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 アレキサンダー・ロニー、桂木聡子	4．巻 27(2)
2．論文標題 「被災体験後「今」を表現する ： 絵から読み取れる被災ナラティブ」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『国際協力論集』	6．最初と最後の頁 17－32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 勅使河原君江	4．巻 90
2．論文標題 「KAVC REVIEW 『表現しないうたと身体』『Composite』	5．発行年 2019年
3．雑誌名 「ART VILLAGE VOICE」	6．最初と最後の頁 3－3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Maebayashi, H, Takiguchi T, Takada S.	4．巻 65（2）
2．論文標題 Study on the language formation process of very-low-birth-weight infants in infancy using a formant analysis	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Kobe J. Med. Sci	6．最初と最後の頁 E59-E70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Yamamoto Akio、Kihara Kenji、Yagi Mariko、Matsumoto Yoko、Tsuneishi Shuichi、Otaka Hideo、Yonezawa Masaya、Takada Satoshi	4．巻 15
2．論文標題 Application of a wearable switch to perform a mouse left click for a child with mix type of cerebral palsy: a single case study	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Disability and Rehabilitation: Assistive Technology	6．最初と最後の頁 54～59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/17483107.2018.1520309	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 高田 哲、米山 明、木村 重美、山下 裕史朗	4．巻 51
2．論文標題 災害時の子どもへの支援―障害のある子どもたちに焦点をあてて―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 脳と発達	6．最初と最後の頁 202～205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11251/ojjscn.51.202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 三浦 清邦、高田 哲、山下 裕史朗	4．巻 51
2．論文標題 特別支援学校における人工呼吸器使用に関する【ガイド】について	5．発行年 2019年
3．雑誌名 脳と発達	6．最初と最後の頁 43～51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11251/ojjscn.51.43	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田哲	4．巻 82（3）
2．論文標題 障害児：2重の負荷	5．発行年 2019年
3．雑誌名 小児科診療	6．最初と最後の頁 381-386
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡邊 雄介、大歳 太郎、滝口 哲也、高田 哲	4．巻 59
2．論文標題 小児期における線描スキルの定量的評価に関する研究	5．発行年 2019年
3．雑誌名 小児の精神と神経	6．最初と最後の頁 191～198
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24782/jsppn.59.2_191	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 高田哲、三浦清邦.	4．巻 28（2）
2．論文標題 特別支援学校における人工呼吸器使用に関する【ガイド】について－医療的ケア児・重症心身障害児（者）への在宅地域生活支援－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Clinical Rehabilitation	6．最初と最後の頁 178-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 富士 しおり、倉澤 茂樹、宍戸 聖弥、高田 哲	4．巻 38
2．論文標題 自閉スペクトラム症のある青年の作業遂行技能と感覚および自己効力感との関連に関する研究	5．発行年 2019年
3．雑誌名 作業療法	6．最初と最後の頁 64～71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32178/jotr.38.1_64	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 アレキサンダー・ロニー	4．巻 第22号
2．論文標題 Gendered Security: Learning from Being and Feeling Safe on the Island of Guahan/Guam.”	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『ジェンダー研究』	6．最初と最後の頁 7～25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Alexander, Ronni	4．巻 4:2
2．論文標題 “Feeling Unsafe ~ Exploring the Impact of Nuclear Evacuation.”	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Narrative Politics	6．最初と最後の頁 65-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Alexander Ronni	4．巻 30
2．論文標題 Living with Disaster Capitalism after Fukushima	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Peace Review	6．最初と最後の頁 152～159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/10402659.2018.1458942	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Alexander Ronni	4．巻 30
2．論文標題 Teaching Peace with Popoki	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Peace Review	6．最初と最後の頁 9～16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/10402659.2017.1419669	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Alexander Ronni	4．巻 17(2)
2．論文標題 Gender, Disaster and Stories from Popoki: Learning from Women Survivors in Northeast Japan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国際協力論集	6．最初と最後の頁 17-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計29件（うち招待講演　18件／うち国際学会　6件）

1．発表者名 アレキサンダー　ロニー
2．発表標題 震災シンポジウム～つながりと安心～
3．学会等名 負けない忘れない3.11―ここから生まれる未来 びっくり箱Part12（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 アレキサンダー　ロニー
2．発表標題 ねこのポーポキと一緒に平和について考え、自らも平和をつくりましょう
3．学会等名 第２０回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー（招待講演）
4．発表年 2023年

１．発表者名 高田哲
２．発表標題 病院から在宅へ，そして育ち合う場へ－ 神戸市における医療的ケアの歩みから
３．学会等名 第27回日本医療保育学会総会・学術集会（神戸市）　（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 津田聡子、丸山有希、室加千佳、近藤千恵、高田哲
２．発表標題 知的障害・発達障害のある思春期女子のための月経教育に関する研修プログラムの効果（第１報）―教員向け研修会を通して―
３．学会等名 第70回日本小児保健協会学術集会（川崎）　（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 津田聡子、丸山有希、室加千佳、近藤千恵、高田哲
２．発表標題 知的障害・発達障害のある思春期女子のための月経教育に関する研修プログラムの効果（第２報）―保護者向け研修会を通して―
３．学会等名 第70回日本小児保健協会学術集会（川崎）（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 三原俊、前林英貴、高田哲
２．発表標題 在宅生活を送る脊髄性筋萎縮症Ⅰ型患者2名が自己形成期を振り返り語った思い -計量的テキスト分析を通して-
３．学会等名 第70回日本小児保健協会学術集会（川崎）（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 木原健二，大神怜花，渡邊雄介，高田哲，石川朗
２．発表標題 COVID-19の流行が肢体不自由児の在宅介護に及ぼした影響についての検討
３．学会等名 第55回日本小児呼吸器学会学術集会（豊岡）　（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 アレキサンダー　ロニー
２．発表標題 「ウクライナ戦争が引き金となった　モヤモヤ感はなんとかならない？」
３．学会等名 日本平和学会関西地区（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 アレキサンダー　ロニー
２．発表標題 「日本および世界におけるセクシュアルマイノリティの状況と課第」
３．学会等名 兵庫県小児保険協会総会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 吉岡三恵子、高木康子、高田哲
２．発表標題 早期療育を受けた児の20歳前後の状況について‐証明書や診断書を求めての受診から
３．学会等名 第64回日本小児神経学会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 津田聡子、丸山有希、室加千佳、近藤千惠、高田哲
２．発表標題 知的障害・発達障害のある思春期女子の月経教育マニュアルの開発と検証
３．学会等名 第69回日本小児保健協会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 三原俊、前林英貴、高田哲
２．発表標題 在宅生活を送る脊髄性筋萎縮症I型患者2名が自己形成期を振り返り語った思い - 計量的テキスト分析を通して
３．学会等名 第69回日本小児保健協会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Alexander, Ronni
２．発表標題 Diversity is more than counting, and more than women Looking at diversity from a broad perspective
３．学会等名 FoPM International Symposium, University of Tokyo（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 アレキサンダー　ロニー
２．発表標題 「ジェンダー・姓・セクシュアリティが尊重される 社会をえがくー私たちの課題と展望ー」
３．学会等名 ２０２２年度　神戸大学　ダイバーシティフォーラム　「ジェンダー・性・セクシュアリティが尊重される社会をえがく―私たちの課題と展望」（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 アレキサンダー　ロニー
２．発表標題 「ポーポキ、安心の絵、描ける？」びっくり箱Part12
３．学会等名 防災シンポジウム：「今、ここで考えよう明日の防災～つながりと安心」（招待講演）
４．発表年 2022年～2023年

１．発表者名 アレキサンダー　ロニー
２．発表標題 「平和って、なんだろう？ねこのポーポキと一緒にかんがえよう！
３．学会等名 2022年度国際教育ワークショップ地球市民を地域とともに育てようpart 21　主催（公財）滋賀県国際協会SIA 共催JICA 関西国際教育研究会Glocalnet Shiga（招待講演）
４．発表年 2022年～2023年

１．発表者名 Ronni Alexander
２．発表標題 Peace Studies Section Distinguished Scholar Roundtable: Peace Studies and Popoki
３．学会等名 International Studies Association Annual Convention 2021（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Ronni Alexander
２．発表標題 Narrating Anti-Nuclear Feminism in the Island Pacific and Japan: Stories of Working for Decolonization, Demilitarization and Peace
３．学会等名 International Studies Association Annual Convention 2021（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 S. Tsuda, M. Chika, C. Kondo, S. Takada
２．発表標題 Teaching Menstrual Hygiene Management to Adolescent Girls with Intellectual Disabilities and High Support Needs
３．学会等名 32nd ICM Virtual Congress,（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 高田　哲
２．発表標題 就学前の支援　分野別シンポジウム「ライフサイクルに沿った重症児支援を考える ～在宅移行から就学、看取りまで関わる際に大切にしたいこと～」
３．学会等名 第124回日本小児科学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 アレキサンダー・ロニー
２．発表標題 Popoki’s Mask Gallery: Living the Pandemic
３．学会等名 International Peace Museum Conference（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 アレキサンダー・ロニー
２．発表標題 「「安全安心」を描く～創造型コミュニケーションの成果をふりかえる」
３．学会等名 「2021年 神戸大学都市安全研究センターシンポジウム　東日本大震災から10年 わかってきたこと、今伝えたいこと」
４．発表年 2020年

1．発表者名 アレキサンダー・ロニー
2．発表標題 “Learning from the Great Hanshin Earthquake”.
3．学会等名 Building Resilience, Climate Change and Disaster Risk Reduction,” (Session 4): Urban and Social Resilience Mercy Malaysia International Humanitarian Conference, Kuala Lumpur, Malaysia（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 アレキサンダー・ロニー
2．発表標題 Addressing Invisibility and Fear: Strategies for risk reduction from the perspective of peace and social inclusion,
3．学会等名 Building Resilience, Climate Change Adaptation and Disaster Risk Reduction” (Session 3):, Mercy Malaysia International Humanitarian Conference, Kuala Lumpur, Malaysia.（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 アレキサンダー・ロニー
2．発表標題 Popoki, are you afraid of the sea? Lessons from Popoki’s work for peace and safety with people in coastal communities
3．学会等名 International Marine Culture Conference 2019. National Kaohsiung University of Science and Technology（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 アレキサンダー・ロニー
2．発表標題 Identifying issues in disaster risk, vulnerability and resilience from a gender and peace studies perspective,
3．学会等名 UNESCO Chair International Seminar, Mae Fah Luang University, Chiang Rai, Thailand.（招待講演）
4．発表年 2019年

１．発表者名 勅使河原君江
２．発表標題 ミュージアムエデュケーション研究会２０１９「みんなの学(まな)美場(び ば)」　神戸市立小磯記念美術館ワークショップ
３．学会等名 神戸市立小磯記念美術館（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 安里知陽、勅 使河原君江
２．発表標題 「美術制作を通したシニアの学習ニーズの変容」
３．学会等名 第57回大学美術教育学会（奈良教育大学）
４．発表年 2018年

１．発表者名 アレキサンダー　ロニー
２．発表標題 Telling Stories II: Autobiography, Auto-ethnography, and Narrative Politics
３．学会等名 International Studies Association Annual Convention（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計15件

１．著者名 Ronni Alexander, Siriporn Wajjwalku, eds.	４．発行年 2023年
２．出版社 Springer	５．総ページ数 235
３．書名 Making Disaster Safer: A Gender and Vulnerability Approach	

１．著者名 高田哲、	４．発行年 2023年
２．出版社 誠信書房	５．総ページ数 158
３．書名 孤立をしない、孤立させない．p38－39　養護教諭養成講座①　学校における養護活動の展開（改訂第11版）：共著医療的ケア児の健康管理における養護教諭の役割	

１．著者名 津田聡子、高田哲	４．発行年 2022年
２．出版社 東山書房	５．総ページ数 50
３．書名 発達がゆるやかな思春期女子のための月経教育マニュアル	

１．著者名 ロニー・アレキサンダー	４．発行年 2022年
２．出版社 神戸大学出版会	５．総ページ数 192
３．書名 ポーポキのマスクギャラリー ~コロナ禍でアートを通して日常の安心を探る	

１．著者名 秋山　千枝子	４．発行年 2021年
２．出版社 診断と治療社	５．総ページ数 316
３．書名 グランドデザインから考える小児保健ガイドブック	

1．著者名 津田聡子、高田哲（監修）	4．発行年 2022年
2．出版社 東山書房	5．総ページ数 40
3．書名 発達がゆるやかな思春期女子のための月経教育マニュアル	

1．著者名 高田哲（分担）	4．発行年 2021年
2．出版社 神戸大学出版会	5．総ページ数 192
3．書名 ポーポキのマスクギャラリー ~コロナ禍でアートを通して日常の安心を探る	

1．著者名 桂木聡子（分担）	4．発行年 2021年
2．出版社 神戸大学出版会	5．総ページ数 192
3．書名 ポーポキのマスクギャラリー ~コロナ禍でアートを通して日常の安心を探る	

1．著者名 高部 優子、奥本 京子、笠井 綾、ロニー・アレキサンダー、中原 澪佳、松井 ケティ、ベティ・リアドン、暉峻 僚三、鈴木 晶	4．発行年 2021年
2．出版社 法律文化社	5．総ページ数 162
3．書名 平和創造のための新たな平和教育	

１．著者名 國部 克彦/鶴田 宏樹/祇園 景子（編）アレキサンダー　ロニー（共著）	４．発行年 2021年
２．出版社 神戸大学出版会	５．総ページ数 405
３．書名 価値創造の教育 ： 神戸大学バリュースクールの挑戦	

１．著者名 水口雅、市橋光、崎山弘、伊藤秀一　編　（高田哲）	４．発行年 2020年
２．出版社 医学書院	５．総ページ数 1002
３．書名 今日の小児治療指針第17版	

１．著者名 高田哲	４．発行年 2019年
２．出版社 神戸大学出版会	５．総ページ数 242
３．書名 災害と障害のある人々．地域づくりの基礎知識－災害から一人ひとりを守る	

１．著者名 Alexander, Ronni	４．発行年 2019年
２．出版社 Springer	５．総ページ数 291
３．書名 Exploring Betty A. Reardon’s Perspective on Peace Education: Looking Back	

１．著者名 Alexander, Ronni	４．発行年 2019年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 170
３．書名 Teaching Peace with Popoki,” in Teaching Peace and War: Pedagogy and Curricula	

１．著者名 図画工作・美術科教育研究会著　勅使河原執筆	４．発行年 2019年
２．出版社 建帛社	５．総ページ数 216
３．書名 『図画工作・美術科教育法』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

神戸大学ユネスコチェア事業「ジェンダー、脆弱性、ウェルビーイングを中心に据えた減災対策」の一環として、海外の５つの大学と本研究の手法を用いて共同研究を行い、書籍を出版した。

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岡田　順子 (Okada Junko) (00213942)	神戸大学・海事科学研究科・准教授 (14501)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中原　朝子 (Nakahara Tomoko) (50624649)	神戸大学・男女共同参画推進室・政策研究職員 (14501)	
研究分担者	朴木　佳緒留 (Hounoki Kaoru) (60106010)	神戸大学・人間発達環境学研究科・名誉教授 (14501)	
研究分担者	勅使河原　君江 (Teshigawara Kimie) (60298247)	神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	桂木　聡子 (Katsuragi Satoko) (60608678)	兵庫医療大学・薬学部・准教授 (34533)	
研究分担者	高田　哲 (Takada Satoshi) (10216658)	神戸大学・保健学研究科・名誉教授 (14501)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
インドネシア	Gadjah Mada University			
マレーシア	Tinku Abdul Rahman University			
タイ	Thamassat University	Mae Fah Luang University		
その他の国・地域	高雄科技大学			